

Bulletin

組込みシステム技術協会機関誌

vol. 99

Bulletin JASA

2026
Oct.

EdgeTech+
2026

11月18日(水) - 20日(金)

10:00-17:00 (19日[木]は18:00まで)

会場：パシフィコ横浜 展示ホール / アネックスホール

AI 駆動開発は、組込み領域でどう使いこなす？
フィジカル AI 最前線では、いま何が起きている？

この問いの答えが、今ここに！

開幕特集
PREVIEW

- ✓ 今年のポイントをチェック！ 展示情報・注目セミナー
- ✓ これぞ、これも、EdgeTech+ 特別企画・併催イベント
- ✓ 展示技術の傾向を視覚化！ 出展製品 / サービス カオスマップ

会社訪問



ミラクシア エッジテクノロジー株式会社

独自のマイコンEOL対応ソリューションが業界で高評価
下回りの開発で深めた知見を強みに組込み課題解決を目指す

活動報告



EdgeTech+ West 2026 レビュー / ETロボコン2026 / 仮説検証ブートキャンプ
[支部・委員会だより]

| コモングラウンド委員会デジタルツイン研究WG | デジタルツインの現在地 展示会出展でシーズとニーズのギャップを考える
| 九州支部 | 九州地域における半導体産業の現状と将来像を解説する講演会を開催 | 中部支部 | 人事制度情報交換会 開催
| 北海道支部 | 生成AI時代の組込み業界と人的資本経営をテーマに講演会 | 近畿支部 | 「お月見会」報告 他支部からも参加し盛況
| 関東支部 | 関東支部例会開催報告
「組込みLinuxエンジニア認定プログラム」について
JASAxアイティメディア 戦略的パートナーシップを締結

etc.

横田英史の書籍紹介コーナー / 会員企業一覧

新任理事ご挨拶 理事・ナレッジサービス副委員長 武田 昌弘 株式会社メタテック



一般社団法人

組込みシステム技術協会
Japan Embedded Systems Technology Association

“AI駆動型開発×フィジカルAI 最前線”を注目テーマに展開

去る7月23日(木)・24日(金)の両日、梅田・グランフロント大阪において協会主催のEdgeTech+West 2026を開催。“生成AIで進化する開発現場。ものづくりは『AIと創る』新時代へ”をテーマに、展示とカンファレンスでシステム開発技術の最新情報を発信しました。



展 示

連日の猛暑にもかかわらず、5000名を超える来場者で賑わいました。AI、組込みソフト、組込みハード/半導体デバイスなど、エッジ技術の最前線に立つ出展各社のソリューションを体験する貴重な機会となりました。

参加数	118社・団体 (123社・団体)
小間数	130小間 (142小間)
来場者数	5,442名 (6,225名)

※カッコ内は前年数値



出展者コメント

- 「自社ブースへの来場者は期待より少なかったが、実案件につながるリードがあり出展の意義があった」
- 「セミナー終了後、展示会場に足を運ぶ人の数が減っている印象をもった」
- 「会場の広さが手頃で、来場者がじっくりと展示を見てくれる」
- 「横浜展と比べると相対的に製造業の来場者が多く、現場寄りのツールの受けが良かった」
- 「基調講演の後など、展示会場内の来場者に波があり、多い時はブースの説明員で対応しきれない時間帯もあった」

カンファレンス

産官学からの業界リーダーによる基調講演をはじめ、注目テーマにも据えたAI駆動開発、フィジカルAIに切り込み、最新動向やエッジ開発とどう関わっていくのか議論するセッションなど、中身の濃い有料級セッションを2日間展開。多くの立ち見会場が出るほど注目を集めました。

講演数 **35セッション** (43セッション)

※カッコ内は前年数値



AI駆動開発は、組み込み領域でどう使いこなす？
 フィジカルAI 最前線では、いま何が起きている？
 この問いの答えが、今ここに！

EdgeTech+
 2026

11月18日(水) 10:00▶ 20日(金) ▶17:00
 ※19日(木)のみ18:00まで

エッジテックプラス



来場無料

Web登録受付中

<https://www.jasa.or.jp/expo/>



パシフィコ横浜
 展示ホール/アネックスホール



AI駆動開発 フィジカルAI SDx/SDV エッジAI 半導体 EU CRA/セキュリティ リスキリング/人材育成…

AI IoT 組み込みソフト 組み込みハード/半導体デバイス 開発支援 セーフティ&セキュリティ…



【特別企画】Automotive Software Expo 注目の基調講演！

18日(水) E2E (End to End) 自動運転

19日(木) SDxカンファレンス

20日(金) フィジカルAI

協会主催の技術総合展「EdgeTech+2026」が11月18日(水)から3日間、パシフィコ横浜で開催されます。今回は「生成AIが変える、開発パラダイム」を重点テーマに据え、半導体からAI駆動開発、フィジカルAIまで、“物理層の変化”を体感する多彩な展示とカンファレンスで、課題解決とビジネス機会創出の場を提供します。

展示会

EdgeTech+
 2026

カンファレンス

30枠超の
 基調講演！



東洋大学
 坂村 健



NVIDIA
 平野 一将



Noetra
 岡野原 大輔



日経Robotics
 進藤 智則



ソニー・インタラクティブ
 エンタテインメント
 田中 章愛



ティアフォー
 齊藤 之寛



マツダ
 今田 道宏

EdgeTech+ 2026 プレビュー

展示情報・注目セミナー



【特別企画】

SDV時代の自動車開発とソフトウェア技術を、 展示とカンファレンスで紹介!!

今回4回目の開催となる「オートモーティブ ソフトウェア エキスポ」。自動車開発における最新のソフトウェア技術にフォーカスを当て、関連の技術、業界動向、製品の最新情報をお伝えします。また、AUTOSARパビリオン、モデルベース開発パビリオン、自動車サイバーセキュリティパビリオンといった企画ゾーンも設け、自動車のソフトウェア化に欠かせない分野の最新動向を網羅します。

EXPO内企画ゾーン

- AUTOSARパビリオン
- モデルベース開発パビリオン
- 自動車サイバーセキュリティパビリオン

CHECK

Automotive Software Expo 基調講演

- 11.18 (水) E2E自動運転 Day
- 11.19 (木) SDxカンファレンス Day
- 11.20 (金) フィジカルAI Day



オートモーティブ | 注目セッション

※2026年10月15日(木)時点

11.18(水) | E2E自動運転 Day

E2E自動運転のAIモデル開発と開発環境の視点から
注目企業が最新情報を発信

●自動運転の民主化

～AutowareとEnd-to-Endの最前線～

(株)ティアフォー 先進技術部 部長/
テクニカルプロジェクトマネージャー/プリンシパル
斉藤 之寛



●Global Top10 OEMが中国で選んだ 「Momenta」のE2E自動運転

Momenta Vice President of Business Development
勞 世斌



●SDVのライフサイクルをクラウド側から支える AIエージェントと開発環境の最前線

アマゾン ウェブ サービス ジャパン(同)
技術統括本部 ストラテジックエンタープライズ本部
自動車・製造第一ソリューション部 シニアソリューションアーキテクト
高野 秀樹



11.19(木) | SDxカンファレンス Day

経済産業省、OEM、Tier1が揃い、産学官のSDx最新動向を1日で

●名古屋大学 未来社会創造機構 教授

高田 広章



●経済産業省 製造産業局 自動車課 モビリティDX室 室長

黒藪 誠



●マツダ(株) 執行役員

統合制御システム開発・R&D革新担当

今田 道宏



●イーソル(株)

代表取締役社長CEO兼CTO

榎藤 正樹



●ソフトウェアディファインドが拓く競争優位

～SDVの競争力を支える標準化とエコシステム～

パナソニック オートモーティブシステムズ(株)
プラットフォーム開発センター プリンシパルエキスパート
山室 弥久



●E/Eアーキテクチャの変化に対峙してきた アイシンの取り組みと次の開発課題

～SDVの価値創出サイクルを「実際に回せる」競争力へ～

(株)アイシン 製品開発センター 電子開発本部
ソフトウェア基盤技術部 主査
中根 光規



11.20(金) | フィジカルAI Day

国産フィジカルAI基盤モデルの当事者と、
世界の先頭を走るプレイヤーが同じ日に登壇

●次世代基盤モデルの展望とフィジカルAIの実現にむけて

Noetra(株) 開発戦略室
岡野原 大輔



●NVIDIAが加速するフィジカルAIの進化

— 認識から推論・行動へ、次世代エッジコンピューティングの最前線 —

NVIDIA ロボット事業部 事業部長
平野 一将



●フィジカルAI 日本の処方箋、今何に取り組むべきか

日経Robotics 編集長
進藤 智則



PICK
UP

- ☑ テーマ別セッション: 組込みのためのAI駆動開発 / フィジカルAI最前線
- ☑ 関連団体連携セッション: JAMBE / J-Auto-ISAC / 情報処理学会 / 台北市コンピュータ協会
- ☑ JASA企画セミナー: JASA技術本部による研究成果、WGの活動を紹介

出展製品・サービスのジャンル別割合

組込みハード/半導体デバイス	21%
AI	21%
組込みソフト	20%
IoT	14%
開発支援	11%
セキュリティ&セキュリティ	6%
開発環境	4%
ワイヤレス	3%

コア技術

AI駆動開発	20%
オートモティブソフトウェア	19%
画像認識AI	19%
フィジカルAI	17%
協創/新規事業開発	14%
生成AI	7%
AIエージェント	6%
オープンソースソフトウェア	6%
アジャイル&DevOps&CI/CD	4%
スタートアップ	4%
リスティング/ソフトウェア人材育成	2%

プラス技術

→ 関連記事: 出展製品・サービス カオスマップ (P.6-P.7)

多彩なテーマゾーン・企画パビリオン

- 設計開発サービスパビリオン
- 半導体設計・EDAパビリオン
- LoRaパビリオン

- 生成AIゾーン
- モデルベース開発パビリオン
- ユニバーシティパビリオン

基調講演 | 主なプログラム

※2026年10月15日(木)時点

<エッジテクノロジーの最前線をキャッチアップし展望するキーノート>

11.18(水)

● 心が動くものづくりの原体験を

～社内起業toio・「魔改造の夜」の事例から～

ソニー・インタラクティブエンタテインメント toio事業推進室
toio開発者・事業ファウンダー
田中 章愛

● 日本マイクロソフト(株) 技術統括室 業務執行役員 NTO

田丸 健三郎

● Private AIへの進化

～AI前提のシステム設計と運用～

東京大学大学院情報理工学系研究科 教授
江崎 浩

● AIは脅威か、武器か。

——組込み業界が今すぐ動くべき理由

GitLab(同) ソリューションアーキテクト本部
シニア・ソリューション・アーキテクト
小松原 つかさ

● EU CRA対応で「何をどう準備したらいいか

悩んでいる」人のための講座

ブラック・ダック・ソフトウェア(同)
シニアテクニカルマーケティングマネージャー
松岡 正人

● 経済産業省 AI産業戦略課 課長

渡辺 琢也

11.19(木)

● Physical AI × Agentic AIで実現する次世代モノづくり

～The AI-Powered Product Journey～

アマゾン ウェブ サービス ジャパン(同)
技術統括本部 ストラテジックエンタープライズ本部
第二ソリューション部 シニアソリューションアーキテクト
宇佐美 雅紀

● INIAD cHUB(東洋大学情報連携学 学術実業連携機構)

機構長

坂村 健

● シリコンからインテリジェント製品へ:

次世代AIシステムを実現するエンジニアリング

アロー・ジャパン(同) APAC Business Development
Vice President - APAC Head
Uday Mohandas

● エッジAI環境として整備が進むWindows

～開発展開から知財保護まで製品実装への現実解～

東京エレクトロン デバイス(株)

● 技術を「組み込む」から、AIを「現実世界へ連れ出す」へ

～CES・MWC・ハノーバーメッセ2026から読み解く、
経済成長を担う組込みエンジニアの進化

(株)AIST Solutions CTOオフィス Vice CTO
和泉 憲明

● 半導体ソリューション基調講演

インテル(株)

11.20(金)

● 生成AIは次の時代へ

～AIとともに創り、AIとともに働く社会の実現に向けて～

日本マイクロソフト(株) 業務執行役員 エバンジェリスト
西脇 資哲

● Google AntigravityとGeminiでつくる

AI駆動開発

グーグル・クラウド・ジャパン マーケティング本部
北瀬 公彦

● 変化の時代に複雑性を制する

～未来の組み込みエコシステム～

Vector Informatik GmbH
Dr. Philipp Hallmen / Dr. Manuel Hüpfel

● ヒューマノイドの進化を支えるTIのソリューション

日本テキサス・インスツルメンツ(同)
営業・技術本部 西日本エリア ディレクター
椿 威志

● 異次元の成長を始めた半導体産業は

どこまで成長するのか

インフォマインテリジェンス(同)
シニアコンサルティングディレクター
南川 明

EdgeTech+ 2026 プレビュー

特別企画・併催イベント

CHECK

これぞ、これも、EdgeTech+。
ここでしか体験できない“ならでは”の企画・イベントを会場でお楽しみください！



EdgeTech+ AWARD

産業の成長を支える次世代技術・ソリューションを表彰

EdgeTech+ AWARDは、組込み業界の発展と国内産業の競争力向上に寄与する、優れた組込み技術や製品、ソリューション、サービス、IoT技術を発掘し、その成果と功績を国内外に広く顕彰するイベントです。これからの産業の成長を必ずや支えてくれるであろうソリューションの最先端を、ぜひその目でお確かめください。

出展者の技術・製品・サービスから各優秀賞・特別賞を厳選。会期中には表彰式をおこない、受賞者を称えます。
(写真は2025 AWARDより)



受賞者によるスペシャルピッチの実施や、受賞ポイントがチェックできるパネル展示で、次世代技術が体験いただけます。



ETロボコン2026 チャンピオンシップ大会

全国各地の精鋭チームが集結！
最先端テクノロジーを学べる教育ロボコン

北海道から沖縄まで全国各地の参加チームの中から勝ち上がった精鋭チームがパシフィコ横浜に集結し、競技会を実施します。(P.8に詳細記事)



仮説検証 BOOT CAMP

VUCAワールドを制するための短期集中トレーニング
11.20(金)に参加者が最終パフォーマンスに臨む

新価値を生み出していく事業/サービス/商品開発を担う人材に必須の「実践力」を身につけるトレーニングプログラムです。
(P.9に詳細記事)



※10月19日(月)時点の情報です。詳細は公式サイト(<https://www.jasa.or.jp/expo>)でご確認ください。

EdgeTech+ フェスタ 11.19(木) 17:00~18:00

ドリンクを用意してお出迎え グラス片手に有意義な情報交流を

本展恒例の『フェスタ』。出展各社がビールあり、ワインあり、吟醸酒ありと、多彩な飲み物やおつまみなどをご用意して皆様の参加をお待ちしております。気軽に出展者とコミュニケーションをとり、有意義な時間をお過ごしください。



2026 TAIWAN AI FORUM 台湾発・AI産業最前線 エッジAIとフィジカルAIが描く未来

AI半導体、エッジAI、ロボティクス、スマート製造など、AI産業の第一線で活躍する専門家を迎え、最新の技術動向や産業応用、企業におけるAI変革の最前線を紹介。日台企業の連携による新たなビジネスの可能性を探ります。(11.19(木)14:00~16:10)



葉 宗穎 (Joe Yeh)

ELAN Microelectronics Corp. (義隆電子)
Executive Vice President



黃 識忠 (Scott Huang)

itechman Robot Inc. (達明機器人) COO /
Vice President



横見 光 (Hikaru Yokomi)

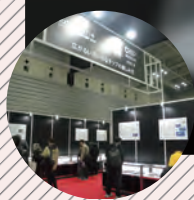
アドバンテック株式会社 社長 /
Managing Director (MD)



栗 永徽 (Yung-Hui Li)

Hon Hai Research Institute (鴻海研究院)
人工知能研究所 所長 / Senior Director

チップミュージアム ☆ 広がるいろいろなチップの楽しみ方



EdgeTech+ 2026 会場で 3日間だけオープンする博物館

歴史的な半導体チップたちを展示するチップミュージアム。初開催以来、年々充実度を増して好評を博してきた企画も今年で5年目となりました。周辺チップを含めたプロセッサファミリーやボードの数々...今回はパッケージの違い、メーカーの違い、ロゴや印字の違いなど、館長の独断と偏見で選りすぐったチップたちが大集合します。ご期待ください!

チップミュージアム☆ 館長
収集家
秀関快郎 氏



IoT

組み込みハード/半導体デバイス

開発環境

AI



AIIXON

ANW



ZOTAC®



JASA会員



CIC

Interface
トランジスタ技術



パーソナルクロステクノロジー

HaL



Nextorage

BIOSTAR

HIGHRESO

CHAOXIAN

Panasonic
パナソニック システムデザイン株式会社

PFU
A RICOH Company

FEAT

Speed up your AI
FIXSTARS

SiMa^{ai}

MACNICA

YAZAKI

stream
UBESTREAM

株式会社 ユリ電気商会
Yuridenki-shokai Co. Ltd.

組み込みソフト



INTERFACE CO., LTD.

UX
ULTRA-X
ASIA PACIFIC



CATANIA
CORPORATION

QNX



国立大学法人
静岡大学

JISC
Japan Information Service Co., Ltd.

Elmic

DynaFont

DXC
IMPOSSIBLE. DELIVERED.

TOSHIBA

NCES

K y a s t e m
D S P Technology

OR >

PERSEUS

モリサワ

Ubiquitous AI

JASA会員



CRESCO



CRIWARE®

SHAREWORK
IT Services, Outsourcing & Cloud Services

TechMatrix

TDI

東光高岳



NSK
日本システム開発

ワイヤレス

Sakuma Antenna

JASA会員

SHOSHIN

K-Best technology

YOSUN
Yosun Antenna Technology Co., Ltd.

1FINITYモバイルテクノ株式会社

セーフティ&セキュリティ

IT Access®

VicOne

Ndias

M CREST

SCIENCE PARK

J-Auto-ISAC
Japan Automotive Information Sharing and Analysis Center

Secure
Innovation

Deloitte
デロイトトーマツ

萩原エレクトロニクス株式会社

リョーサン養洋
RYOYO RYOSAN

WiseSecureTech

開発支援

LSI、FPGAに特化した回路設計の
MGIC
株式会社MGIC (オムロン)

JAMBE

GitLab

株式会社 当磨商事
t-WIN
TECHNOLOGY SERVICE INC.

DI SQUARE

JASA会員

Upwind Technology, Inc.

とめ

HEARTLAND.DATA

VALTES
FOR QUALITY CONFIDENCE

BACKSLASH
DESIGN

システムに特化する
アンドロシステムサポート株式会社

VECTOR >

Development Solutions Produce
HOLON

IDEC
YOKOHAMA

RIGOL

LiberalLogic

Storyboard

未来を創るエンジニアの登竜門 — ETロボコン



「5年後、10年後に世界を変えるのは、今ここにいる若きエンジニアたちかもしれない。」ETロボコンは、若手・初級エンジニアを対象に、分析・設計・モデリング・開発といった本格的な技術プロセスに挑戦できる場を提供しています。業務では既存システムの保守が中心となりがちですが、本大会では、ゼロから設計し、実装・テストまでを約半年かけて経験。まさに“ものづくり”の本質に触れる貴重な機会です。2002年の初開催から今年で25年目を迎えるETロボコン。全国188チームが参加し、11月にはパシフィコ横浜でチャンピオンシップ大会を開催。各地区から選ばれた精鋭チームが集い、技術と創造力を競い合います。次世代を担うエンジニアの挑戦が、ここから始まります。

エントリークラス【フルオンライン】

【まずはここから！】「作る楽しさ」と「設計の基礎」を体感する入門ステージ

- 対象：未経験者・ソフトウェア開発の初学者
- ポイント：プログラミングとモデリング（設計）のつながりを手軽に体験！オンライン完結で、イチからモノづくりの面白さに触れられる安心のスタートラインです。

ベーシッククラス

【実践力を磨く】モデルで魅せる！チームで勝つ技術を体得

- 対象：開発・設計の基礎を学びたい初級エンジニア
- ポイント：設計を可視化する「モデリング」を活用し、狙い通りの走りを生む確かな実装力を習得。個人スキルだけでなく、チーム開発やプロジェクトマネジメントの基礎も身につきます。

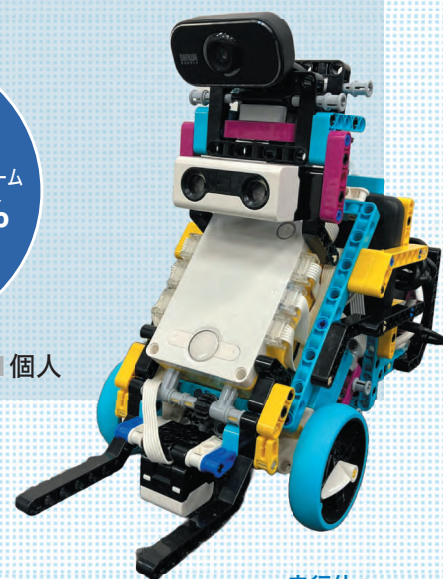
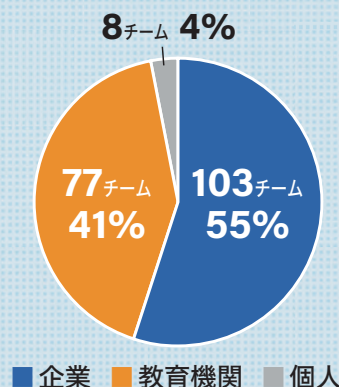
アプライドクラス

【生成AI時代の先へ】高度制御×AIで、次世代の課題を打ち破る

- 対象：応用レベルへ挑戦したいステップアップ層・経験者
- ポイント：高度な制御技術やAI（人工知能）などの最新要素を導入！システム全体を最適化する高次元な設計力・応用力を鍛え上げ、一歩先を行くエンジニアへ飛躍します。

年間スケジュール

5～6月 技術教育	設計図の記載方法や競技に必要な内容を学びます。
7～9月 競技練習・設計図提出	本番コースでの試走や設計図を作成します。
9～10月 地区大会	チャンピオンシップ大会進出チームは約40チームと狭き門。
11月 チャンピオンシップ大会	全国の猛者から真の王者を決めます。



走行体：HackSpide dachs

スポンサー企業 × 教育機関による産学連携 — 技術と創造の共育の場

ETロボコンの参加チームは、社会人と学生がそれぞれ約半数を占めており、多様なバックグラウンドが交わる学びの場となっています。2023年に3チームから始まった産学連携の取り組みは、2024年に8チーム、2025年に16チーム、そして今年は20チームへと拡大。企業がメンターとして教育機関と協力しながら取り組んできた成果は、技術力はもちろん、チームワークや創造力といった“人づくり”の面でも大きな見どころです。

参加者、スポンサーにご興味がある方はこちらまで



新しい人材育成のカタチへ

AIがコードを書き、正解を教えてくれる世の中になりました。だからこそ今、ビジネスで本当に求められるのは「答えのない課題に、仲間と泥臭く立ち向かう力」です。ETロボコンは、AI時代を生き抜くエンジニアに必要な「実践的なテクニカルスキル」×「AIには真似できないコミュニケーション力」を、リアルな体験型アクティビティで体得する参加型育成プログラム。【組織の成長】×【個人の進化】を實體化するETロボコンは、次世代を担うリアルな現場力を育むコンテンツとして、多くの企業・教育機関から選ばれています。

仮説検証ブートキャンプ

～ VUCAワールドを制する短期集中トレーニング～

AI活用×顧客起点で新規事業の「売れる仮説」を磨く 3日間集中プログラム

「仮説検証ブートキャンプ」は、一般社団法人組込みシステム技術協会（JASA）と、特定非営利活動法人人間中心設計推進機構（HCD-Net）・一般社団法人人間中心社会共創機構（HCS共創機構）の共同プロジェクトであり、仮説検証を通して「HCD（Human Centered Design：人間中心設計／人間中心デザイン）」の必要性や、仮説検証の手法としてのHCDを学ぶことを目的としております。

本プログラムは、VUCA（Volatility：変動性、Uncertainty：不確実性、Complexity：複雑性、Ambiguity：曖昧性）の時代にあって、「仮説検証」といったアプローチを通

じて、新しい仮説・アイデアや解決策を創出しては検証する、といった習慣を身につけるための「人材育成の機会」であり、「実践手段を学ぶための機会」です。

本年度はAI活用も考慮した最新の学習内容となるよう構成を再編しつつ、遠方からの参加も可能になるようワークショップもオンラインでの開催になります。

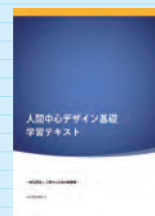
最終成果発表は、11月20日（金）にEdgeTech+2026（JASA主催）での「企画プレゼンテーション」を予定しており、AIを活用した動画やプレゼン資料での発表を行っていただきます。

プログラム構成：

1. 仮説検証の知識習得（10月／オンライン＋HCD基礎検定受験）
2. 実践形式ワークショップ（10月～11月／オンライン）
 - Day 1 / 10/8(木)：初期仮説の構築 × ユーザー受容性検証
 - Day 2 / 10/22(木)：提供価値の再定義 × 構造検証
 - Day 3 / 11/5(木)：持続可能性の設計 × 運用検証(Ops)
3. 企画プレゼンテーション（11月20日(金)午後／EdgeTech+会場）

審査委員長：

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 白坂成功 教授



主 催：一般社団法人組込みシステム技術協会（JASA） <https://www.jasa.or.jp/>
EdgeTech+2026関連イベント <https://www.jasa.or.jp/expo/>
共 催：特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構（HCD-Net） <https://www.hcdnet.org/>
一般社団法人 人間中心社会共創機構（HCS共創機構） <https://hcs-cc.org/>
後援（予定）：経済産業省、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）、デジタル庁
企画・運営：仮説検証ブートキャンプ実行委員会
委員長／JASA副会長 株式会社エクスモーション 代表取締役社長 渡辺 博之 氏

【仮説検証ブートキャンプ事務局】
お問合せ先
info@hv-bootcamp.biz

マイコンEOL対応ソリューション 「要件定義・ソフト実装」サービス

ソースコードだけで、ミラクシアが要件定義～ソフト実装までを最短1か月でお届けします。ハードの設計・製造と並行すればボードが届くころにはソフトも完成！大幅な開発期間の短縮に貢献します。



▲9月下旬に発表した「要件定義・ソフト実装」サービス

ろん、オープンソース、アルゴリズム、業界標準などといった要件を考慮してはじめて最適なデバイスシステムが構築できる。生産スピードと品質を確保しながら数多く開発してきたことで、こうした要件を考慮してシステム提案できることが弊社の強みです」(中澤社長)

技術開発、事業開発を担う CTOオフィスを新設

現在開発を担う組織は、車載エンジニアリング事業を主とするモビリティシステム開発センター、産業系や車載以外のエンジニアリング事業に対応するインダストリアルシステム開発センターが軸となる。加えて、新規技術や共通技術、事業開発を手掛けるCTOオフィスを立ち上げた。エンジニアリング業務とは異なる切り口で、組込み開発分野が直面する課題に向き合う。中澤社長は「工数爆発、複雑化、技術者不足。こうした課題のすべてに 대응するには一対一の対応には限界があります。ものづくり系のお客様に我々のノウハウやスキルを効率よく提供するため新しいソリューションを展開していきます」と説明する。

また、NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)が推進する研究開発事業であるチップレット型カスタムSoC評価環境の開発(※)への参画は直近の話題のひとつ。半導体のSoCの機能を複数のチップに分割しひとつのシステムとして統合する取り組みで、同社は基盤ソフトウェアと評価ボードの開発を担っている。(※プロジェクト名:ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業/先端半導体製造技術の開発/チッ

プレット型カスタムSoC設計基盤技術開発、担当:事業項目5_チップレット型 カスタムSoC評価環境の開発)

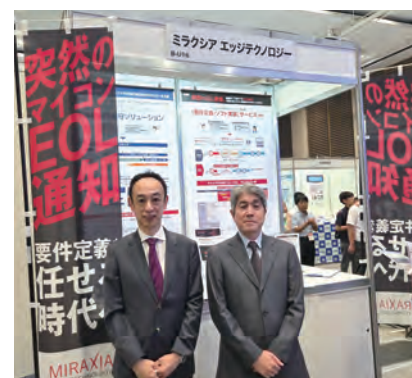
ノウハウ×AI=課題解決の 新サービスを創出

最近では卓越したノウハウと生成AIを掛け合わせ、経験や勘に基づく暗黙知やノウハウ、技術の資産化に取り組む。「しっかりと文書化、見える化していこうと。一昨年から取り組みですが、その発想からサービス化したのがマイコンEOL対応「要件定義」サービスです」(中澤社長)

CTOオフィスのリーダーである小川雅裕CTOが「EdgeTech+アワードの受賞で事業展開に加速がつきました」と話すように、昨年秋からの展開以降、採用企業も増えてきた。サービス化の経緯について、小川氏は次のように続ける。

「弊社には、半導体ベンダー並みにアーキテクチャレベルで詳細を把握し最適な実装まで行える技術があります。組込みソフト開発も、いかにハードウェアの能力を引き出すかという点にフォーカスしています。個社として稀有な存在だと思いますし、この技術自体をもっとたくさんの企業に届けることで、より長く活用される商品が社会に広がっていくような世界観を築きたいという思いがありました」

「要件定義」サービスは、既存のソースコードだけあれば、要件定義に必要なドキュメント(『マイコン置き換え開発計画書』『マイコン置き換え資源割当設計書』『マイコン推奨品種提案書』)を最短2週間で納



▲EdgeTech+ Westの展示ブースをバックに

品する。「設計作業が大幅に短縮されるように、調達部門には代替に適したマイコン推奨品、開発キーマンには要件実現に向けた差分や想定工数などの情報が提供できます」(小川氏)。採用した企業からは“ベテランでも3ヵ月は要するドキュメント作成が2週間で届いた。アウトプットも期待以上”と目を見張る成果に感心する声があがっている。

また多くの声に応えるかたちで、要件定義からソフト実装まで対応する新サービスも開始した。5ヵ月は要する作業を最短1ヵ月で完了するという。小川氏は「後工程も含めて単体テストしたものをお渡しします。生成AIと当社のノウハウをフレームワーク化し、熟練者による成果物の確認を組み合わせることで、効率的かつ安定した品質のソリューションを提供しています」といい、今後の展開が期待される。

こうしてエンジニアリングサービスを軸にサービスを拡大中の同社。将来的には、技術者育成サービスの提供も見据えている。中澤社長は「高度な組込み技術者を育成するイメージですが、なかなかそうしたソリューションは見当たりません。弊社でも新入社員向けに教育プログラムを実施していますが、それらを外部に提供することも検討していきます」と教えてくれた。

同社には6ヵ月におよぶフルタイムの研修がある。中澤社長は「長すぎるという意見もありますが」と苦笑しつつも「得意領域である下回りに対応する組込み技術者を育てるには必要な日数」と言い切る。400名超の従業員のうち92%が技術者。技術を追求する基盤がしっかりと整備された環境から、今後も課題解決につながるサービスが創出され続けることを確信した。

●「会社訪問」のコーナーでは、掲載を希望される会員企業を募集しています。お気軽にJASAまでお問い合わせください。

独自のマイコンEOL対応ソリューションが業界で高評価 下回りの開発で深めた知見を強みに組み込み課題解決を目指す

ハードウェアとソフトウェアをつなぐ組み込みシステム開発を展開するミラクシア エッジテクノロジー株式会社(本社:京都府長岡京市)。400名を超す社員の92%が技術者だ。保有するノウハウやスキルを活用し課題を解決する包括的なサービスを創出する。先の7月に開催されたEdgeTech+ Westに出展いただいた同社に、会場で話をお聞きした。

代表取締役社長 中澤 省吾氏(左)
CTO 小川 雅裕氏



EdgeTech+アワードを受賞した マイコンEOL対応ソリューション

マイコンのEOL(End of Life:生産終了)に直面した際には早急な対策が必要となる。終了前に在庫を購入して凌ぐ、ピン互換品とソフトウェアの移植を進める、あるいは別のマイコンに置き換え開発する…。対象となるのはライフサイクルが10年以上におよぶ長寿製品や産業機器。構築時のキーマンはすでに退職、当時のドキュメントが残っていないなど運用の属人化が大きな障壁となる企業は多い。

そうした先行き困難な状況を解決に導くのが、ミラクシア エッジテクノロジーが展開するマイコンEOL対応の「要件定義」サービス。生成AIを活用し最短2週間でソースコードから高品質な要件定義ドキュメントを作成してくれる。再設計にあたり最大の難関となる上流工程が短期間で完了し、以降の設計・移行のリードタイムは大幅に圧縮されることになる。

この独自性あるサービスは、昨年11月のJASA主催「EdgeTech+ 2025」でのアワードでAI設計支援 優秀賞を受賞している。展示会に参加された方はご存じの向きもあるだろう。

“案件数が多く市場性が確実なEOL対応領域において、成果の起点となる要件定義を短期間で整流化する価値を高く評価した。AIによる自動化は厳密な仕様が前提であるという時代認識に立ち、上流での品質を底上げする本サービスは、AI設計支援の潮流を体現している”(審査講評より)。ハードウェアへの深い知見を有する同社だからこそ可能なサービスといえるだろう。

大手メーカーの最終製品、量産まで 手掛けた強み

その歩みは半導体開発から始まっている。パナソニックグループとして1997年の設立から半導体事業を支えてきた。「半導体デバイスと、搭載するベースソフトウェア、デバッグやSDKの開発を手掛けてきました。コンシューマ向けから車載、産業系などグループ全体へと対象が広がり、ハードウェアをよく理解した組み込みソフト開発というノウハウが蓄積されていきました」と代表取締役社長・中澤省吾氏は話す。

メーカーの最終製品、量産を支援する重責から、同社としても効率よく市場に届けるための施策を講じてきたという。「最終製品として品質への強い責任感から組み込み開発

をいかに効率化するか常に意識していました。この意識はいまもメンバーにはDNA的に刷り込まれています”(中澤社長)。その後、2020年の半導体事業の譲渡にともない、台湾企業のウィンボンド エレクトロニクス傘下となっている。エンジニアリングの対象がグループ内からより多彩な企業へ広がったことは大きな変化だったという。

デバイスとアプリをつなぐ下回りでの知見を深め、保有した専門的なスキルやノウハウはデバイス性能の最大化、アプリ開発の効率化を実現するデバイスシステムインテグレーションスキルとして昇華している。「最適な組み込みシステムの構築には、各種のさまざまな要件を正しく理解する必要があります。デバイスがどういう作りになっているのか、スペックはもち

▼EdgeTech+ Westの出展者セミナー会場。
立ち見客も多く注目の高さがうかがえた





コモングラウンド委員会 デジタルツイン研究WG

デジタルツインの現在地 展示会出展でシーズとニーズのギャップを考える

私たちコモングラウンド委員会 デジタルツイン研究WGは、これまでのシーズベースの取り組みに加え、社会実装を意識したニーズベースの活動にも力を入れています。その一環として利用者の生の声を直接伺うため、8月18、19日に東京ビッグサイトで開催された「第1回 製造イノベーションDXPO東京'26【夏】」において、DIT様の展示ブースをお借りし、展示を行いました。

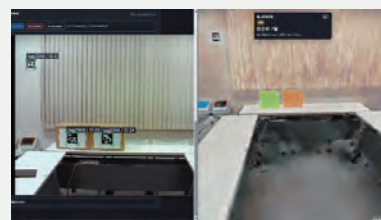
展示では、バーチャル空間上に再現したJASA会議室に対し、フィジカル空間に配置した箱をシステムで認識し、リアルタイムにバーチャル空間へ反映する仕組みを紹介しました。また、会議室のバーチャル空間は、「3D Gaussian Splating」という技術を活用し、360°カメラ映像から3D空間を再現しました。

シーズとしての価値

この技術の特徴は、低コストかつ短期間で空間をデジタル化できる点にあります。会議室程度の空間であれば、カメラを持って歩くだけでデータ収集が完了し、その日のうちに3D空間を生成できます。技術者の立場からは、この手軽さは大きな価値です。

ニーズまでの距離

しかし展示会で来場者と対話する中で、利用者が価値を感じる対象は私たち技術者の視点とは大きく異なることを実感しました。来場者の関



▲左のフィジカル空間に設置した箱が、右のバーチャル空間に反映されるツインの状態を展示した。

心は「3D空間を短時間で構築できること」ではなく、「棚卸作業の効率化」や「遠隔からの現場確認」といった業務課題の解決に向けられていました。利用者にとって重要なのは技術そのものではなく、結果として得られる効果です。この認識の違いこそが、技術の社会実装を難しくする要因の一つだと感じました。

今回の展示を通じて、技術シーズを磨くだけでなく、それを利用者の価値へ翻訳する重要性を改めて認識しました。多様な企業が集まるJASAだからこそ、シーズとニーズを結び付け、社会実装へつなげる役割を果たせると考えています。

九州支部

九州地域における半導体産業の現状と将来像を解説する講演会を開催

九州支部は8月26日に、パナソニックでチップマウンターの開発に従事されていた牧野豊氏をお招きし、「九州地域半導体産業の動向とサプライチェーン概要」と題したセミナーを開催しました。講演会場に16人、オンラインで4人のJASA会員の方にお集まり頂きました。牧野氏は、九州および北海道における半導体産業の発展に大きく貢献された豊富な実績をお持ちです。現在は西日本シティ銀行 法人ソリューション部 半導体チーム アドバイザーを務められるほか、ラピダス社の北海道進出支援にも携わっておられます。今回の講演も豊富な経験に裏付けられた内容で充実したものになりました。

講演は、九州地域における半導体産業の現状と将来像を、技術・市場・サプライチェーンの多角的な視点から網羅的に理解できる内容で、非常に有意義でした。まず、世界・日本の半導体産業の歴史的変遷と今後の成長予測から説き起こされ、その中での九州の戦略的位置づけが明快に示されました。特に、近年のAI需要拡大やデータセンター増設に伴うプロセス革新が、九州の強みである製造装置・材料分野のサプライチェーンにど

のような新展開をもたらすかについての解説は極めて示唆に富むものでした。

さらに、ハードウェア面にとどまらず「組込みソフトウェア」領域における新たなビジネスチャンスへの言及もあり、地域産業が取り組むべき次の一手と広がりを実感しました。半導体再興に沸く九州ですが、本講演を通じて単なる工場誘致の域を超えた、高度な技術革新とエコシステム構築の重要性を再認識しました。

聴講された皆様も、自社の事業展開や技術開発の方向性を検討するうえで、大いに活用したい価値ある知見を得ることができたのでは、と感じております。

セミナー終了後には、博多駅周辺の居酒屋にて懇親会を開催いたしました。講師の牧野氏をはじめ、セミナーに参加された皆様全員にご出席いただき、活発な意見交換や会社・職種を超えた交流が行われ、大変盛況のうちに終了いたしました。



▲牧野豊氏

中部支部

人事制度情報交換会 開催

中部支部では、9月11日に人事制度情報交換会及び懇親会を実施しました。中部支部の会員企業の人事担当者を中心に8社14名が集まり、人事制度、とりわけ賃金制度と評価制度のあり方について、企業が自社に合った仕組みを検討するための情報交換を実施しました。

情報交換会では、「正解を持ち帰る」のではなく、「自社制度を見直すための問いを持ち帰る」ことを目的に掲げ、そのうえで、人事制度見直しの背景として、人材確保競争の激化、賃上げ対応、社員の納得感向上、人件費の持続的なコントロールといった経営課題について話しました。

また、賃金体系を「何に対して賃金を支払うか」という観点から整理し、年齢・勤続給、能力給、役割給、職務給、成果給の5つの考え方を紹介して、それぞれに安定性や人材育成効果、役割責任との連動性、市場との整合性、業績反映のしやすさ、年功化、評価の難しさ、短期志向といった特徴を踏まえて、各社の制度について議論しました。

さらに、評価制度は経営方針と報酬をつなぐ「翻訳装置」で

あり、期待役割、目標、評価基準、処遇の関係を明確にしなければ社員の納得感は得られないと紹介し、基本給、手当、賞与、報奨金、自社株譲渡等それぞれの役割を整理し、それぞれの企業でどのような目的で支払い、どういった効果が現れるかを話し合いました。

最後に、社員の定着についても各社の現状と対策を話し合いました。業種や規模を超えて人事という同じ課題について様々な角度からの意見・情報交換が活発に行われ、時間内では議論し尽すことはできませんでした。

その後、場所を懇親会に移し、さらに活発な意見交換を実施し、大変盛況な会となり、参加者の皆様の満足度が高いイベントとなりました。



▲情報交換会の様子

北海道支部

生成AI時代の組み込み業界と人的資本経営をテーマに講演会

北海道支部は「交流セミナー2026」を開催しましたのでご報告します。

開催日時：2026年9月2日(水) 15:00～18:00 (交流会 18:00～)

開催会場：TKPガーデンシティPREMIUM札幌大通

第1部：フィジカルAI・AI駆動型開発は人月ビジネスを終わらせるか ソフトウェア駆動型社会への変革と日本の競争戦略～組み込みソフトウェア業界の提言 2026～

当協会の山田敏行専務理事が強調したのは、生成AIの登場によってソフトウェア開発の前提が変わり、「人がコードを書く価値」や人月モデルが大きく揺らいでいる点です。AI駆動開発により少人数でも大きな成果が出せるため、SIerが従来の人月

モデルに固執すれば淘汰されるという見通しには、強い危機感を抱き、課題等について理解を深める機会になりました。

第2部：エンゲージメントを最強の財務指標にする「ヒト輝かせ資本経営」

田辺孝由樹氏(株式会社イレブン・ラボラトリー代表取締役社長)の講演は、「エンゲージメントこそ最強の財務指標である」を軸に、人的資本経営の重要性を説く内容でした。松下幸之助氏の「物を作る前に人を作る」を起点に、リーダーの信念が組織成果を左右すると語られました。欧州の大規模開発プロジェクト崩壊を立て直した経験から、技術やプロセス以上にES(従業員満足度)とエンゲージメントが危機を越える原動力になる、と述べられた点が印象的でした。

セミナーの参加者は全部で112名。来賓5名、講師2名、講演・運営6名、来訪者99名のご出席を頂き盛況なセミナーとなりました。皆様にお礼を申し上げます。

またセミナー終了後に同じ会場で交流会を開きました。



▲山田敏行専務理事の講演



▲田辺孝由樹氏の講演



近畿支部

「お月見会」報告 他支部からも参加し盛況

近畿支部では、9月16日(水)の支部会議に合わせ、「お月見会」を京都・先斗町の「いづもや」にて開催いたしました。近畿会員の皆様とのさらなる交流を目的として企画した本会には、近畿支部の皆様はもちろんのこと、今回は他支部からお越しいただき、総勢48名もの方々にご参加いただき、盛況のうちに終えることができました。

会場となった「いづもや」は、鴨川沿いに佇む風情ある名店です。当初は鴨川のせせらぎと涼やかな夜風を感じられる川床での開催を予定しておりましたが、当日はあいにくの雨模様と

なったため、急遽室内での開催へと変更いたしました。それでも、お部屋の大きなガラス窓からはゆったりと流れる鴨川の景色を眺めることができ、先斗町ならではの落ち着いた和の空間の中、天候を吹き飛ばすような、近畿支部らしい明るくアットホームで賑やかな時間が流れました。

お食事には、名物のうなぎをはじめ、旬の食材をふんだんに取り入れた京料理の数々が振る舞われました。美味しいお料理とお酒を味わいながら、各テーブルで自然と会話が弾み、会場のあちこちで笑顔が溢れる和気あいあいとした雰囲気にか

関東支部

関東支部例会開催報告

8月27日(木)に開催された関東支部例会についてご報告いたします。

今回の関東支部例会では、セミナーおよび懇親会が開催されました。今回は多くの方にご参加いただき、セミナー、懇親会ともに大変盛況となりました。

関東支部セミナー

関東支部セミナーは、関東支部長の挨拶から始まり、講演1、講演2、新入会員企業6社の紹介という流れで進行されました。以下、それぞれの概要をご紹介します。

関東支部長の挨拶

支部長からは、晩夏の猛暑にも関わらず40名超の会員企業の皆様に集まって頂いたことへの感謝の言葉のあと、ちょうど話題となっていた中国にて開催された第2回世界ヒューマノイドロボット競技大会に関する話がありました。

講演1「ブロックチェーン技術の基礎とモビリティへの応用」

講師:SBIホールディングス株式会社

執行役員 ブロックチェーン推進室長 藤本 守 氏

藤本氏より、「ブロックチェーン技術の基礎とモビリティへの応用」をテーマに、ブロックチェーンが生まれた背景や技術の特徴・課題、MOBI(Mobility Open Blockchain Initiative)の取り組みについてご講演いただきました。

今回の講演を通じて、ブロックチェーンは暗号資産だけに使われるものではなく、データの信頼性を担保し、企業間で安全に情報を共有するための技術として活用できることを学びました。特に、自動車業界では多くの企業やサービスが関わるため、改ざんされにくいデータを共有できるブロックチェーンとの親和性が高いと感じました。MOBIでは、車両1台ごとにIDを持たせるVIDや、EVバッテリーの製造・使用履歴を管理するバッテリーパスポートなどの取り組みが進められており、中古車の履歴やバッテリー状態など、車両に関する情報の信頼性向上に



▲挨拶するエステベス支部長



▲藤本氏の講演の様子



▲國井理事の講演の様子

まれていました。

また、他支部からのご参加があったことで、普段の関西の枠にとどまらない支部を超えた繋がりを作ることができたことも、今回のお月見会ならではの魅力となりました。

あいにくの天候による会場変更はあったものの、美味しいお食事や皆様の笑顔、そして賑やかな笑い声に恵まれ、時間が経つのを忘れるほどの盛り上がりを見せました。会員同士の親睦をさらに深める、大変楽しく充実したひとときとなりました。

ご多忙の中ご参加いただきました皆様、ならびに他支部よりお越しいただいた皆様に、心より感謝申し上げます。



つながることが分かりました。

これまでブロックチェーンには暗号資産のイメージを強く持っていましたが、モビリティをはじめ、企業や業界を越えて信頼できるデータを共有する仕組みとして幅広い可能性を持つ技術であることが印象に残りました。

講演2「クロスミドルの経過報告」

講師：国井 雄介 理事

国井理事より、「クロスミドルの経過報告」と題し、これまでの活動内容や活動を通じた成果、今後の展望についてご講演いただきました。クロスミドルは、30～40代のミドル世代が企業の枠を越えて交流し、業界の未来を考え、実際の行動につなげていく活動であることを学びました。特に印象に残ったのは、単なる「人材育成の場」ではなく、「成長のための気づきを与え続け、参加者同士で共に成長する場」を目指している点です。

これまでの活動では、経営や営業などをテーマに、講義だけでなく参加者同士でディスカッションを行い、得られた学びを実際の行動につなげています。また、利害関係のない同世代だからこそ本音で意見交換ができることも、企業横断型の活動ならではの価値だと感じました。

クロスミドルは、参加者本人の成長だけでなく、企業にとっては次世代リーダーの成長、業界にとっては競争力の強化につながるなど、「本人・企業・業界」の三方に価値を生み出す活動であることが印象に残りました。

新入会員企業紹介

新入会員企業として、Apal Tech Japan株式会社、シマフジ



▲屋形船での懇親会の様子

電機株式会社、株式会社シームレステクノロジー、TIS長野株式会社、株式会社オレンジアーク、ミラクシア エッジテクノロジー株式会社の6社よりご紹介いただきました。

懇親会（屋形船）

講演終了後は場所を屋形船に移し、40名を超える参加者による懇親会が開催されました。

お台場やスカイツリーの夜景を眺めながら、名刺交換や意見交換はもちろん、参加者同士で写真を撮るなど、終始和やかで活気のある交流の場となりました。特に印象的だったのは、屋形船という非日常的な空間だからこそ、会社や役職の垣根を越えて自然と会話が生まれていたことです。普段の会議室や飲食店とは異なる開放的な雰囲気の中で、より一歩踏み込んだ交流が生まれ、会員企業同士のつながりを深める貴重な機会となりました。

今回生まれたつながりをその場限りにせず、今後の情報交換や新たな連携へとつなげていきたいと思います。

「組み込みLinuxエンジニア認定プログラム」について

JASAはグローバルコミュニティのLinux Foundation (以下LF)と共同で、国内の組み込みシステム分野でのOSSスキル向上を目指して「組み込みLinuxエンジニア認定プログラム」を2026年内にスタートします。当プログラムでは、JASAが運営するETECの指定グレード認定後、LFで運営するLinux向けの指定トレーニングコースを受講、CODE試験に合格することで認定エンジニアのバッジ取得ができるプログラムです。

生成AIの普及拡大により、従来の組み込みシステム開発で重要とされる制御処理に加え、クラウド連携、データ中心のセキュリティ、そしてエッジAIによる推論など、より高度な情報処理が求められ、その多くはOSSを多用し、ハイブリッド動作させる開発スタイルにシフトしています。そういったエンジニアリング環境の変化に対応するためには、組み込みエンジニアに求められるスキルセットとしてLinuxやOSSの利活用ノウハウを身に付けることは最重要課題で、我が国の組み込みソフトウェア産業としても競争力維持のために必須です。

認定プログラムの概要

ETEC (組み込み技術者試験制度) : JASAが策定した組み込み技術エンジニアリングにおける高度な知識とスキルを有していることを証明する資格で、組み込みシステム業界で活躍するための基盤となるスキルを証明します。

CODE (Certified Open Source Developer for Enterprise) : 企業環境において、会社のポリシーや上司の指示に従い、企業環境におけるソフトウェア開発業務にOSSの利用や活用を適切に組み込む方法や技術を理解していることを証明します。

この2つのトレーニングと試験制度を組み合わせこれからの組み込みエンジニアのスキルセットをモダン化、可視化する制度として進化させてまいります。



JASA × アイティメディア 戦略的パートナーシップを締結

一般社団法人組み込みシステム技術協会 (JASA)とアイティメディア株式会社は、JASA主催の国内最大級の組み込み技術総合展示会「EdgeTech+ 2026」において、企画・展示会価値向上を共同で推進する戦略的パートナーシップを締結しました。

本展示会は、直近の2025年開催では3日間でリアル来場者が3万2429人を数え、329社・団体が出展するなど、業界を代表するプラットフォームとしての地位を確立しています。

「モノからコトへ」、いま価値は逆流する エッジ x AI の潮流に対応

これまで価値の重心はハードからソフトへ、そしてAI活用へと移ってきました。しかし近年、AI需要の急拡大と電力インフラの逼迫を引き金に、価値は物理層と半導体へ回帰しつつあり、EdgeTech+2026の出展・基調講演にも半導体関連が「戻ってきた」のはその表れです。組み込み業界では、AIが物理世界で自律的に稼働する「フィジカルAI」、ハードウェアの制約をソフト

EdgeTech+ 2026

ウェアで打破する「SDx」、AIが開発プロセス自体を変革する「AI駆動型開発」へのパラダイムシフトが急速に進んでいます。

両社の強みで新たな展示会体験を！

JASAは主催・事業統括として方針策定や出展社・来場者対応、40年の業界ネットワークを提供します。アイティメディアは月間3.5億ページビュー・6000万ユニークブラウザの読者基盤と「MONOist」等、組み込み分野のコンテンツ制作力を活かし、企画強化や新規来場者層の開拓を支援します。ソフトから物理・半導体へと揺れ戻る産業の転換点を捉え、オンラインとリアルを融合した新たな展示会体験の創出を目指します。

横田英史の 書籍紹介コーナー



実践 フィジカルAIの教科書 ～現実世界へ歩み出すAIの技術と活用事例～

株式会社日立製作所 AI CoE
新潮社 3,520円(税込)

いまやメディアで目にしない日はない「フィジカルAI」。本書は、基本概念から要素技術、適用事例、今後の展望までを網羅する。文章は構造化され、豊富な図や写真、表を効果的に使っており理解しやすい。倫理面の問題に言及していないのは残念だが、入門書・教科書として手元に置く価値はある。

本書は4章から成る。「フィジカルAIとは？」から「フィジカルAIの基盤技術とアーキテクチャ」「産業分野に見るフィジカルAIの活用事例」「今後の展望」へと展開する。基盤技術としてロボット基盤モデル、世界基盤モデル、デジタルツインを取り上げる。製造業、物流、自動車、鉄道、電力など事例も豊富だ。

ヒトとAI

岡野原大輔
岩波書店 1,034円(税込)

AIを人間社会に組み込む際に、ヒトはどのように自己を再定義し、社会の制度や規範を再設計すべきかを論じた書。「AI前提の世界」の見取り図を描き、どこを人間が担い、どこをAIに委ねるかを明らかにする。議論は構造化されており読みやすく、頭の整理に役立つ。

筆者は「AI前提の社会が到来するとき、誰が判断をし、誰が責任を負い、誰が

行為の主体となるのか。制度・規範・アーキテクチャをどのように再設計すべきなのか」と問い、考察する。そして人間の役割は「AIに対して目的と制約を設定し、AIの出す結果の不確実性を見極め、最終的な判断を自らの選択として引き受けることになる」と結論づける。

超知能AIをつくれば人類は絶滅する
エリーザ・コードコウスキー、ネイト・ソアレス、
櫻井祐子・訳
早川書房 2,640円(税込)

人間をはるかに凌駕する超知能AIの誕生は阻止しなければならないと訴えた書。人類は存亡の危機に瀕しており、AIの挙動を人間の意図や価値観に適合させる仕組み(アライメント)の確立と、厳格なガバナンス体制の構築が急務だと説く。

多角的な視点から展開される「AI脅威論」は鋭い。現行の開発手法の危うさを突くだけでなく、技術的ブレークスルーがもたらす「技術的甘美」や功名心が研究者を無秩序な競争へと駆り立て、安全性を後回しにする企業を生む構図を告発する。AI開発に資する計算リソースを国際的な監視団が一元管理し、超知能AI開発への転用を阻むべきだと提言する。

**テクノロジー・リパブリック
～国家、軍事力、テクノロジーの未来～**
アレクサンダー・C・カープ、ニコラス・W・ザムスカ、
村井章子・訳
日経BP 日本経済新聞出版 3,300円(税込)

米パランティア・テクノロジーズの共同創業者と幹部が、「テクノロジー・リパブ

リック(科学技術立国)」の在り方を論じた書。テクノロジー企業は政府との関係を再構築し、国防や国家理念の実現に積極的に関与する義務があると強調する。

テクノロジーは社会を変革し、国家を変え、人類を前進させるために使うべきだと主張する。自由な民主社会が勝利を収めるためには、倫理的・人道的な正しさを訴えるだけでなく「ハードパワー」が不可欠であり、その源泉はソフトウェアから生じるという。現在のテクノロジー企業やシリコンバレーは、目先の利益追求や消費者向けプロダクトに偏重しすぎていると批判する。

不安の世代

～スマホ・SNSが子どもと若者の心を蝕む理由～
ジョナサン・ハイト、西川由紀子・訳
草思社 3,080円(税込)

社会心理学者が、スマホとSNSが子どもたちに与える悪影響についてデータに基づき警鐘を鳴らし、解決策を提示した書。スマホとSNSは、自由遊びや協調性を子どもから奪い、友人との非同期な交流に膨大な時間を費やすように仕向けた。

男女で影響に明確な差があるという。女子はショート動画と自分を比べて自己評価が低下し、不安や抑うつに苛まれる。一方、男子は現実社会での生きた経験が減少し、自信を持てずに無力感に苦しむ。著者は、学校でのスマホ禁止、高校生までスマホを与えない、16歳までSNSアカウントの作成禁止、そして自由遊びの拡充といった具体的な対策を提示する。

横田 英史 (yokota@et-lab.biz)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロービル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現日経クロステック)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、2016年日経BPソリューションズ代表取締役役に就任。2018年3月退任。2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、2018年10月退社。2018年11月ETラボ代表、2019年6月当協会理事、2020年4月(株)DXパートナーズ アドバイザリーパートナー、2024年3月(株)観瀨舎を設立 代表取締役社長、現在に至る。

記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組込み制御、知的財産権、環境問題など。

*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する団体の見解とは関係ありません。



JASA 会員一覧

(2026年10月)

北海道支部

HISホールディングス株式会社	http://www.hokuyois.co.jp
株式会社技研工房	https://www.giken-k.biz
株式会社クレスコ 北海道開発センター	https://www.cresco.co.jp
株式会社コア 北海道カンパニー	http://www.core.co.jp
株式会社シー・エヌ・エス	http://www.cnws.co.jp
株式会社Stableソフト	https://stablesoft0801.com
株式会社ダイナミック	https://www.dynmc.co.jp
株式会社テクノラボ	https://www.techno-labo.co.jp
デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社 函館分室	https://www.ditgroup.jp
株式会社ブライセン 札幌R&Dセンター	https://www.brycen.co.jp
株式会社リッジワークス	https://www.ridgeworks.co.jp

東北支部

株式会社イーアールアイ	http://www.erii.co.jp
株式会社イーエムエス	https://ems-to.jp
株式会社コア 東関東カンパニー	http://www.core.co.jp
株式会社CIC 東北支店	https://www.cichdgroup.com
国立大学法人東北大学 情報科学研究科教授 青木研究室	http://www.tohoku.ac.jp
株式会社ビッツ 東北事業所	https://www.bits.co.jp

関東支部

株式会社アイ・エス・ビー	https://www.isb.co.jp
一般社団法人iCD協会	https://www.icda.or.jp
一般社団法人ICT CONNECT 21	http://ictconnect21.jp
一般社団法人IT検証産業協会	https://www.ivia.or.jp
株式会社アクティブ・ブレインズ・トラスト	https://active-brains-trust.jp
アストロデザイン株式会社	https://www.astrodesign.co.jp
株式会社アックス	http://www.axe.bz
株式会社アットマークテクノ	https://www.atmark-techno.com
アップウィンドテクノロジー・インコーポレイテッド	http://www.upwind-technology.com
株式会社アトム技研	https://www.atom-gkn.co.jp
株式会社アドバンスド・データ・コントロールズ	http://www.adac.co.jp
APAL TECH JAPAN株式会社	https://apal-tech.com
株式会社アフレル 東京支社	https://afrel.co.jp
アンドールシステムサポート株式会社	https://www.andor.jp
イーエルシステム株式会社	https://www.el-systems.co.jp
イーソル株式会社	https://www.esol.co.jp
株式会社イーテクノロジー	https://www.e-technology.co.jp
イメージネーションテクノロジー株式会社	https://www.imgtec.com
株式会社インサイトワン	http://www.insight-one.co.jp
株式会社インフォテック・サーブ	http://www.infotech-s.co.jp
ウィンボンド・エレクトロニクス株式会社	https://www.winbond.com/hq?_locale=ja
株式会社エクス	http://ex-s.co.jp
株式会社エクスモーション	https://www.exmotion.co.jp
SHコンサルティング株式会社	https://www.swhwc.com
STマイクロエレクトロニクス株式会社	https://www.st.com
株式会社NSP	http://www.nsp-ltd.co.jp
株式会社NTTデータMSE	https://www.nttd-mse.com
株式会社NTTデータ オートモビリティ研究センター	https://www.zipc.com
株式会社エヌデーデー	https://www.nddhq.co.jp

株式会社エンファシス	http://www.emfasys.co.jp
株式会社エンベックスエデュケーション	https://www.embex-edu.com
株式会社オレンジアーチ	https://www.orangearch.co.jp
株式会社金沢エンジニアリングシステムズ	https://www.kanazawa-es.com
学校法人金沢工業大学産業連携室	https://www.kanazawa-it.ac.jp
株式会社ギガ	https://www.giga.core.co.jp
一般社団法人行政情報システム研究所	https://www.iais.or.jp
一般社団法人組込みマルチコアコンソーシアム	https://www.embeddedmulticore.org
株式会社グレープシステム	https://www.grape.co.jp
株式会社クレスコ	https://www.cresco.co.jp
K-Best Technology株式会社	https://kbestjp.com
株式会社コア	http://www.core.co.jp
コードギア株式会社	https://www.codegear.co.jp
一般財団法人国際情報化協力センター	https://cicc.or.jp
株式会社コマス	http://www.comas.jp
株式会社コンセプトアンドデザイン	https://www.candd.co.jp
サイバートラスト株式会社	https://www.cybertrust.co.jp
株式会社CIC	https://www.cichdgroup.com
株式会社CRI・ミドルウェア	https://www.cri-mw.co.jp
CQ出版株式会社	https://www.cqpub.co.jp
株式会社シームレステクノロジー	https://seamlesstechnology.jp
SHAREWORK株式会社	https://sharework-corp.jp
JRCエンジニアリング株式会社	http://www.jrce.co.jp
株式会社ジェーエフピー	http://www.jfp.co.jp
一般社団法人J-TEA	http://www.j-tea.jp
株式会社システム計画研究所	https://www.isp.co.jp
株式会社システムサイエンス研究所	http://www.sylc.co.jp
シマフジ電機株式会社	http://www.shimafuji.co.jp
ジェネシス株式会社	http://www.genesys.gr.jp
一般社団法人重要生活機器連携セキュリティ協議会	http://www.ccds.or.jp
一般社団法人情報サービス産業協会	https://www.jisa.or.jp
一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会	https://www.ciaj.or.jp
株式会社ストラテジー	http://www.k-s-g.co.jp
一般社団法人セキュアIoTプラットフォーム協議会	https://www.secureiotplatform.org
株式会社ゼロソフト	https://www.zerone-01.co.jp
株式会社ゼロワン	https://www.zerosoft.co.jp
ソーバル株式会社	https://www.sobal.co.jp
株式会社Sohwa & Sophia Technologies	http://www.ss-technologies.co.jp
一般社団法人ソフトウェア協会	https://www.saj.or.jp
一般財団法人ソフトウェア情報センター	http://www.softic.or.jp
一般社団法人体験設計支援コンソーシアム	http://www.cxds.jp
第一生命保険株式会社	http://www.dai-ichi-life.co.jp
株式会社チェンジビジョン	http://www.change-vision.com
TISI株式会社	https://www.tisi.jp
TIS長野株式会社 松本本社	https://tis-n.co.jp
株式会社D・Ace	http://d-ace.co.jp
株式会社DTSインサイト	https://www.dts-insight.co.jp
TDIプロダクトソリューション株式会社	http://www.tdips.co.jp
テクマトリックス株式会社	https://www.techmatrix.co.jp
ディジ インターナショナル株式会社	http://www.digi-intl.co.jp
デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社	http://www.ditgroup.jp

デンセイシリウス株式会社	https://www.denseisiri.us.com
株式会社電波新聞社	https://www.dempa.co.jp
東京電機大学 未来科学部	http://web.dendai.ac.jp
東芝情報システム株式会社	https://www.tjsys.co.jp
東信システムハウス株式会社	http://www.toshin-sh.co.jp
株式会社東光高岳	https://www.tktk.co.jp
株式会社トーセイシステムズ	https://www.toseisystems.co.jp
特定非営利活動法人TOPPERSプロジェクト	http://www.toppers.jp
トロンフォーラム	http://www.tron.org
株式会社ナイトテクノロジー	https://k-tech.co.jp
株式会社日新システムズ 東京支社	https://www.co-nss.co.jp
日本システム開発株式会社	http://www.nskint.co.jp
株式会社日本製鋼所 広島製作所	https://www.jsw.co.jp
日本生命保険相互会社	https://www.nissay.co.jp
日本ローターバツハ株式会社	https://www.lauterbach.com/jindex.html
ノアソリューション株式会社	http://www.noahsi.com
株式会社ノードゥス	https://www.nodus-inc.com
パーソルクロステクノロジー株式会社	https://persol-xtech.co.jp
株式会社ハイスポット	http://www.hispot.co.jp
株式会社パトリオット	http://www.patriot.co.jp
ハル・エンジニアリング株式会社	https://www.haleng.co.jp
ビ・エモーションA.I.株式会社	https://www.beemotion.ai
株式会社ピーアンドピービューロウ	https://www.pp-web.net
ビジネスキューブ・アンド・パートナーズ株式会社	http://biz3.co.jp
株式会社日立産業制御ソリューションズ	https://www.hitachi-ics.co.jp
株式会社ビット	https://www.bits.co.jp
株式会社ブライセン	https://www.brycen.co.jp
株式会社HOKUTO	https://hokuto-jpn.com
ミラクシア エッジテクノロジー株式会社 新横浜拠点	https://www.miraxia.com
株式会社メタテクノ	https://www.meta.co.jp
モバイルコンピューティング推進コンソーシアム	https://www.mcpc-jp.org
ユタカ電気株式会社	http://www.yutakaelectric.co.jp
株式会社ラデックス	https://www.rdx.co.jp
株式会社来夢多	http://www.ramuda.co.jp
一般社団法人RISC-V協会	https://www.riscv.or.jp
リネオソリューションズ株式会社	https://www.lineo.co.jp
株式会社連基	https://www.cnct.world
早稲田大学 グローバルソフトウェアエンジニアリング研究所	http://www.washi.cs.waseda.ac.jp
INCE株式会社	https://1nce.com/ja-jp

中部支部

株式会社ウィッツ	https://www.witz-inc.co.jp
有限会社OHK研究所	
株式会社OTSL	http://www.otsl.jp
株式会社コア 中部カンパニー	http://www.core.co.jp
三幸電子株式会社	http://www.sanko-net.co.jp
株式会社サンテック	http://www.suntec.co.jp
株式会社テクノフュージョン	http://www.tfusion.co.jp
デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社	https://www.ditgroup.jp
東海ソフト株式会社	http://www.tokai-soft.co.jp
東洋電機株式会社	http://www.toyo-elec.co.jp
萩原電気ホールディングス株式会社	https://www.hagiwara.co.jp
株式会社バッファロー	http://buffalo.jp
ベルエアーシステムズ株式会社	https://www.belairsystems.jp

株式会社マクスエンジニアリング	https://www.maxis-inc.com
株式会社明理工業	http://www.meiri.co.jp
株式会社ユタカ電子	https://www.yutakadenshi.co.jp

近畿支部

株式会社暁電機製作所	https://www.arunas.co.jp
株式会社アクシアソフトデザイン	http://www.axia-sd.co.jp
株式会社アフレル	https://afrel.co.jp
イーエルシステム株式会社	http://www.el-systems.co.jp
HIK株式会社	https://www.hik-jv.jp
株式会社大阪エヌデーエス	https://www.nds-osk.co.jp
一般財団法人関西情報センター	http://www.kiis.or.jp
株式会社キーエンス	https://www.keyence.co.jp
組込みシステム産業振興機構	http://www.kansai-kumikomi.net
株式会社クレスコ 大阪事業所	https://www.cresco.co.jp
株式会社コア 関西カンパニー	http://www.core.co.jp
コネクフリー株式会社	https://connectfree.co.jp
株式会社Communication Technologies Inc.	https://www.cti.kyoto
株式会社システムクリエイティブ	https://systive.co.jp
株式会社システムプランニング	http://www.sysplnd.co.jp
株式会社XIN	https://www.xin-corp.co.jp
スキルシステムズ株式会社	https://skill-systems.co.jp
株式会社ステップワン	http://www.stepone.co.jp
住友電工システムソリューション株式会社	https://www.seiss.co.jp
株式会社窓飛	http://www.sohi.co.jp
株式会社ソフト流通センター	http://www.k-src.jp
株式会社たけびし	http://www.takebishi.co.jp
株式会社タダノ	http://www.tadano.co.jp
株式会社D・Ace 大阪支社	http://d-ace.co.jp
株式会社データ・テクノ	https://www.datatecno.co.jp
デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社	https://www.ditgroup.jp
有限会社中野情報システム	http://nakanoinfosystem.com
株式会社日新システムズ	https://www.co-nss.co.jp
日本システム開発株式会社 西日本支社	https://www.nskint.co.jp
株式会社ハネロン	http://www.haneron.com
株式会社Bee	http://www.bee-u.com
株式会社ビット 関西事業所	https://www.bits.co.jp
株式会社bitset	https://bitset.jp
株式会社FLAPS	https://www.e-flaps.com
株式会社bubo	https://www.bubo.inc
ミラクシア エッジテクノロジー株式会社	https://www.miraxia.com
株式会社村田製作所	https://www.murata.com/ja-jp
株式会社ユニシス	https://uniuni.co.jp
株式会社ルナネクス	http://www.luna-nexus.com

九州支部

株式会社エフェクト	http://www.effect-effect.com
株式会社クレスコ 福岡開発センター	https://www.cresco.co.jp
株式会社コア 九州カンパニー	http://www.core.co.jp
株式会社CIC 九州営業所	https://www.cichdgroup.com
メカトラックス株式会社	https://mechatrax.com
株式会社メック	https://www.mecc.co.jp
柳井電機工業株式会社	http://www.yanaidenki.co.jp

・個人会員 10名

新任理事ご挨拶

理事・ナレッジサービス副委員長 武田 昌弘 株式会社メタテクノ

皆様、はじめまして。この度、理事に選任いただきました株式会社メタテクノの武田と申します。

弊社は1984年の設立以来、組込みソフトウェア開発を軸として成長してまいりました。現在は、クラウド、Web、AIなどの先端技術も活用し、多様な業種のお客様向けにソフトウェア開発を手掛けております。約40年にわたる事業活動の中で、数多くの課題や変化を乗り越えてまいりましたが、近年は生成AIの登場により社会全体の変革が加速しており、組込み業界においてもこれまでにない大きな変革が求められていると感じております。

私もこの大きな変化を自らの成長と変革の好機として前向きに捉え、新たな価値創造に向けた船出の時期であると考えております。まずはナレッジサービス委員会での活動に積極的に参加し、JASAのさまざまな活動を通じて、組込みソフトウェア業界の発展に少しでも貢献できるよう努めてまいります。

まだまだ学ぶべきことも多くございますが、皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



武田昌弘理事

JASA新入会員企業紹介

株式会社HOKUTO



〒013-0053 秋田県横手市外目字大谷地14-1 <https://www.hokuto-jpn.com>

当社は、お客様のアイデアを具現化するために、商品開発、電気設計、筐体・機構設計、試作、量産、販売に至るまで、すべて自社内のワンストップサービスで対応致します。横浜事業所では営業・設計開発機能を持ち、日々お客様先へのご提案や設計業務を行っており、秋田事業所では、設計・試作が完了し、量産に至る製品の製造・検査・信頼性評価、試験を担い、納品後の品質保証機能も有します。お客様ブランドのオリジナル製品開発はもちろんのこと、市販品を流用してのカスタム設計、お客様が設計した製品のものづくり支援まで、民生家電品や産業機器、インフラ設備など幅広い製品の開発・製造実績が私たちHOKUTOの強みです。

株式会社bitset



〒569-1123 大阪府高槻市芥川町2-14-7 ロイヤル高槻2F <https://bitset.jp>

株式会社bitsetは、組込み・制御系システムを中心とした受託開発およびシステムインテグレーション(SI)事業を展開する傍ら、自社オリジナルの製品開発や販売にも取り組んでいます。近年では、ネットワーク試験ツール「AGGRESSOR NETWORK」の提供をはじめ、AMR(自律走行搬送ロボット)の開発・導入支援にも注力しています。

1NCE株式会社



〒102-003 東京都千代田区麹町6-6-2 番長麹町ビル5F <https://www.1nce.com/ja-jp>

1NCEは、全世界170カ国以上でIoT通信を提供するグローバルMVNOです。プリペイド方式、マルチキャリア接続、グローバル対応が大きな特徴で、通信とソフトウェアを1つのプラットフォームに統合したサービスを提供しています。全世界で3万社以上に採用され、4,000万台以上のコネクテッド製品で利用されており、通信コストの低減だけでなく、デバイス開発・運用の簡素化とグローバル展開を支援しています。

■編集後記

当協会は、去る8月7日に設立40周年を迎えました。ひとえに会員の皆様の温かいご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。本号の表紙に40周年記念のアイコンを置きました。来年1月には記念行事の開催と本機関誌の特別号の発行を予定しております。いま、その準備を着々と進めているところです。どうぞご期待下さい。

41年目に入った最初のビッグイベントが「EdgeTech+ 2026」です。11月18日(水)から3日間にわたりパシフィコ横浜で開催します。今回も「生成AI」「フィジカルAI」「SDx(Software Defined Anything)」といった旬のテーマを取り上げた企画が

白押しです。例えば「AI駆動開発は、組込み領域でどう使いこなす?」「フィジカルAI最前線では、いま何が起きている?」といった疑問に、展示会場とセミナーでお答えします。ぜひ会場に足をお運びいただき「AIの今」を実感して下さい。

本号では、各支部や各委員会が夏から秋にかけて開いた勉強会やセミナー、例会などに多くの誌面を割きました。当協会の活発な活動を感じていただければ幸いです。

広報委員長 横田英史

機関誌 Bulletin JASA Vol.99

令和 8 年 10 月 26 日
東京都中央区入船 1-5-11 弘報ビル 5 階
Tel.03-6372-0211 Fax.03-6372-0212
URL <https://www.jasa.or.jp/>

一般社団法人組込みシステム技術協会
発行人 会長 竹内 嘉一
編集人 広報委員長 横田 英史

©無断転載を禁じます。

協会概要

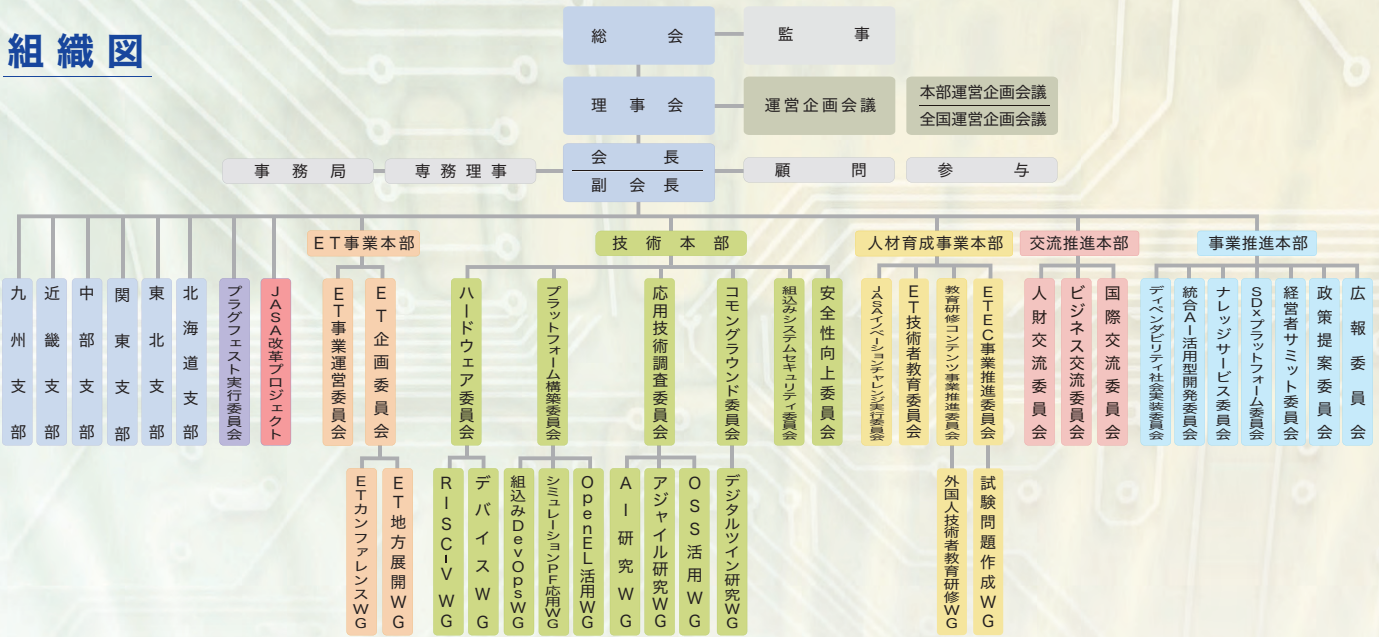
JASAは、組み込みシステム技術とIoT・5G・AI等を含むエッジコンピューティング技術の活用により、様々な産業分野を跨ぐ協会として、技術の普及・高度化、調査研究、人材育成、ビジネス創出等、広範な業界活動を積極的に展開しています。

名称 一般社団法人組み込みシステム技術協会
Japan Embedded Systems Technology Association (JASA)
会長 竹内 嘉一
事務所 本部 東京都中央区入船 1-5-11 弘報ビル 5 階
支部 北海道、東北、関東、中部、近畿、九州
会員数 正会員 151 社 賛助会員 25 社 支部会員 22 社
学術会員 4 団体 個人会員 10 名
設立 昭和 61 年 8 月 7 日
平成 24 年 4 月 1 日 一般社団法人へ移行
組織 事業推進本部、交流推進本部、人材育成事業本部、
技術本部、ET 事業本部
産業分類 日本標準産業分類 G-3912 組み込みソフトウェア業

目的

組み込みシステム(組み込みソフトウェアを含めた組み込みシステム技術をいう。以下同じ。)における応用技術に関する調査研究、標準化の推進、普及及び啓発等を行うことにより、組み込みシステム技術の高度化及び効率化を図り、もって我が国の産業の健全な発展と国民生活の向上に寄与することを目的とする。

組織図



主な事業活動

協会広報及び政策提案等事業

- 『JASAビジョン2030』3 年計画推進と次期計画の策定
- 企業と経営者にとって必要とされる知識、人脈、協創機会の提供
- ホームページ・機関誌等による業界広報の活性化と技術普及促進
- 産官学に向けたJASAブランド・ロイヤリティの向上
- 関係官庁、地方自治体、関連団体・協会等との連携推進

交流促進事業

- 海外動向等情報収集及び発信と国際化対応の支援
- 協業・ビジネスマッチング及び事業創造機会の創出
- 支部・地域団体と連携した情報発信
- 学生に向けた業界認知度の向上と交流イベントの運営

人材育成事業

- ETEC(組み込み技術者試験制度)によるスキル向上と技術者教育
- 教育コンテンツ整備と各種セミナー運営による人材育成事業強化
- 「ETロボコン」による若手技術者の教育機会を提供
- VUCA時代の変化に強いビジネスパーソンを育成する
集中トレーニング「仮説検証ブートキャンプ」の実施運営
- 外国人エンジニアの採用と就職支援

技術高度化・普及開発事業

- 機能安全の課題や国際規格に関する調査研究と安全仕様整備
- IoTセキュリティの国際安全基準適合の認証事業運営と
「組み込みセキュリティ教材」運営

- ③実用IoTとCPS/コモングラウンドを実現する
エッジコンピューティング技術の推進
- ④アジャイル開発に関する調査研究
- ⑤AI活用技術の推進
- ⑥シミュレーション技術を軸とした仮想環境実現の推進と
OpenEL 普及啓発
- ⑦JASA標準組み込みDevOpsプラットフォームの構築
- ⑧RISC-V及びOSSなどオープンな技術の発展、振興と普及啓発
- ⑨インターフェース相互接続検証の場「日本プラグフェスト」の実施運営

展示会・イベント事業

- ①エッジテクノロジーに新たなプラスで加速するDXと事業変革を推進する
総合展「EdgeTech+」の開催
- ②オープンイノベーションイベント、協業イベントの企画運営と
若手来場者の取り込み
- ③業界団体イベントとしての様々なコンテンツ提供
- ④オートモーティブ等、応用分野の取り込みと、生成AI/AI、DX等
最新情報発信

支部活動と地域活性化

- ①支部・本部連携による、組み込みシステム技術の普及啓発
- ②オンライン会議等を活用した、地域から全国レベルの情報発信
- ③地域特性を生かした支部事業の活性化と会員相互の交流促進
- ④地域における官公庁及び関連機関との情報交流と
地域産業の活性化推進



一般社団法人

組み込みシステム技術協会
Japan Embedded Systems Technology Association

[本部事務局]

〒104 - 0042 東京都中央区入船 1-5-11 弘報ビル 5 階

TEL: 03-6372-0211 Email: jasainfo@jasa.or.jp <https://www.jasa.or.jp>

業界動向・技術情報をお届けします！

郵送受付中

『Bulletin JASA』は、当協会発行の会報です。(1月・4月・7月・10月 年4回発行)
組込み技術業界の動向や各種セミナーなど、様々な情報を皆様に発信しています。
ご希望の方には、必要部数をお届けいたします。以下のフォームよりお申し込みいただけます。
*組込み技術・製品設計・開発など、業界に関連する方が対象となります。

URL <https://www.jasa.or.jp/lists/bulletinjasasubscription/>



<主なトピックス>

- 1月:「新春」 業界の見通し - 会員アンケート、組込み企業・大学研究室訪問 etc.
- 4月:「技術特集」 旬の技術を深掘する“知っておきたいHOTキーワード” etc.
- 7月:「EdgeTech+ West 特集」 出展社紹介、JASA技術本部成果発表会 etc.
- 10月:「EdgeTech+ 特集」 展示会プレビュー、ETロボコンチャンピオンシップ大会 etc.



出展申込み
受付中!

大阪開催

7月は大阪へ! 2027年 開催日決定!

EdgeTech+ WEST 2027

2027年 7月 22日(木) - 23日(金) 10:00-17:00

グランフロント大阪 北館B2F コングレコンベンションセンター

エッジテックプラス 大阪



<https://www.jasa.or.jp/etwest/>



●出展に関する資料請求・お問い合わせ・お申し込み等

EdgeTech+事務局 (株)JTBコミュニケーションデザイン内 ☎03-5657-0864 ✉edgetech@jtbcom.co.jp



一般社団法人
組込みシステム技術協会
Japan Embedded Systems Technology Association

[本部事務局]

〒104-0042 東京都中央区入船 1-5-11 弘報ビル 5 階

TEL: 03-6372-0211 Email: jasainfo@jasa.or.jp <https://www.jasa.or.jp/>